

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570200917		
法人名	医療法人誠心会		
事業所名	グループホーム小松原	ユニット名	2号館
所在地	宮崎県都城市小松原町1161-3		
自己評価作成日	平成28年7月15日	評価結果市町村受理日	平成28年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaikokansaku_in/45/index_nhp?action_kouhouyou_detail_2015_022_kanistrue&amp;liyosvosCd=4570200917-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaikokansaku_in/45/index_nhp?action_kouhouyou_detail_2015_022_kanistrue&amp;liyosvosCd=4570200917-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年8月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が利用者様の好みを踏まえて熟考した献立を、同じ時間に、同じテーブルを囲み、同じ物を食す事でさりげない介助を行う事が出来ている。また、一体感が生まれ、顔を見ながら、談笑しながら、アットホームな雰囲気の中で過ごして頂けていると思う。手作りの食事は、思いのこもった温かみのある味で、皆様毎食「おいしい！」と喜んで下さり、平均年齢が95歳とご高齢にも関わらず、完食率が高い。利用者様が過ごし易いよう、傾聴すべき時、静かに一歩引いた所から見守るべき時等、個々の身体、心理状態に合わせた介助が行えるよう、日々観察、職員同士の情報共有を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者職員が家族として寄り添って「心から笑える日常」を熟考しながら、自尊心や残された力を見だし、自由な生活を安らぎと満足のある暮らしにつなげようと努めているホームである。また、日々の暮らしの中で、食事は栄養補給だけではなく、喜びや満足、季節やならわしなどさまざまな感性を呼び起こし、刺激をもたらして利用者を心豊かにしてくれる大切なこととして、おいしく楽しい食事を支援している。さらに、ケアの充実を図るために、内外の研修で得た知識を現場で伝達し、症例について話し合い、最良のケアを利用者に提供できるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	食堂ホールに理念を掲げ、その実践に努めている。		全職員で理念を共有し、そこで出た意見を具現化している。車椅子の利用者が多くなり、外出する機会が少ないとの意見に対し、散歩や軽喫茶、レクリエーション活動を外庭で行うなど、支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	誕生会でボランティアの方に来て頂く程度で、外部との交流少なくなってきた		利用者と一緒に六月灯に出掛け、金魚すくいや灯籠奉納に参加している。月に一回のボランティアとの交流や家族、知人の来訪など、ゆっくり過ごす空間やおもてなしを支援している。	ホームの行事等に地域住民の参加を得たり、また、普段の暮らしの中で、隣近所の人が気軽に立ち寄れるような関係を構築することを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けた情報発信は運営推進会議以外では特に行っていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で外部評価の意義、結果報告を行いサービスの質の向上に努めている。また事業所の取り組みなども報告し、出席者の方々から意見を頂いている。		会議では資料を配布し、ホームの活動状況の報告や意見交換等を行っている。会議で出された意見、要望を全職員で共有して、ケアを見直したり、職場環境を整えるなど、サービスの向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議開催時、市役所の担当の方にアドバイスや意見を頂いている。		市の担当者とは、ホームの運営や課題についての相談や指導を受けるなどの協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止法の研修に参加し、その中で身体拘束の具体的な行為について学び、正しく理解している。職場内でも虐待になる可能性のあるケアがないか見直す機会にもつながっている		内外の研修に参加し、身体拘束の弊害について学び、理解を深め、身体拘束のないケアに全職員で取り組んでいる。見守りを重視した取組で、日中は玄関や居室の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の研修に参加し、研修を受けた職員が職場研修を行い、全職員に身体拘束をしないケアについて報告し、その実践に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年が高齢者の権利擁護や成年後見人制度について学ぶ機会がなかった。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行い利用者の方や家族が理解、納得して契約できるよう支援している。改定等は文書で説明、同意書に署名捺印して頂く。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で出席されたご家族に意見要望を求めたりするも中々意見出ないので、面会時に個別に聞くようにしている。	運営推進会議や家族の来訪時に声掛けを行い、話し合える場を作り、意見や要望を表す機会を設けている。定期的に手紙等や電話で利用者の生活状況を伝え、意見や要望が出やすいように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議にて、職員の要望や購入して欲しい物品があれば提案できる。柔軟に対応している	代表者・管理者は、職員会議や引継ぎ時等で職員の意見や提案を和やかに聞く機会を設け、柔軟に対応している。職員のアイデアで、利用者の外出の機会をより取り入れたいと、外庭で軽喫茶等を開いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤職員や非常勤職員を十分に配置し、職員が心身共に余裕をもって働けるよう配慮している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修やリーダー研修、その他の外部の研修を受ける機会を設けている。また希望する研修があれば受講できる。今年度より、2か月に1回職場内研修を実施するようにしている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特に同業者との交流は行っていない			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は不安だらけなので、話を傾聴し安心して暮らしていけるよう努めている。他の利用者の方とのコミュニケーションが図れるよう職員が中に入り、自然に雑談が出来る様努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にご家族からの要望や不安に思っている事を傾聴していき、互いに気軽に声掛けが出来る信頼関係を築けるよう努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族より利用者の方の現状を聞き取り、現時点で今必要なサービスを話し合い、ご本人や家族が不安な気持ちにならないようサービスを提供している			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯たたみや茶わん拭きや身の回りのことを行いながら、何気ない会話から生活の知恵などを教わり、互いに認め合い良い信頼関係が築けるよう努めている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時に、利用者さんの近況報告を行っている。ご家族より、利用者さんの情報等をその都度提供して頂き、利用者に現状にあった介護計画を提供している			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出する機会が減ってきているが、ご家族や親戚が面会に来られた際は、自室で皆とお茶やお菓子を食べながら、ゆっくりと過ごして頂いている。	地域の祭りでのなじみの人との出会いや家族・知人の来訪、なじみの美容室の出張カットなどを通して、利用者のこれまでの生活の継続的な支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲のいい関係を築いている時は、必要以上に深入りせず見守りをおこなっている。孤立している場合は職員から声をかけ、利用者同士が気軽にコミュニケーションが図れるよう支援している			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族やご本人からの相談があった場合には、その時の必要に応じて対応する用意はある			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、何気ない雑談や表情、様子などを感じとりながら、利用者の変化にすぐに対応できるように努めている。また、利用者さんの気持ちに寄り添いながら支援を行っている	利用者職員が寄り添いながら一緒に楽しむケアの中で、思いや意向の把握に努めている。利用者の意思を尊重して対応し、団体行動の苦手な利用者等には、本人の意思に沿った個別活動を支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から今までの生活歴や趣味などを情報を提供して頂き、ご本人からも雑談やコミュニケーションを通して情報を引き出し無理のない活動を提供出来る様努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日ケース記録にその日の状態を記録していき職員全員が状況把握している。会議などでケアの改善等も行っており、その利用者にあったケアを行っている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画立てるまえに利用者の方、ご家族の意見要望を把握し、サービス担当者会議にて職員間で意見を出し合いながら、利用者ご本人の現状にあう介護計画作りに努めている	本人や家族と話し合い、職員、関係者の意見やアイデアを反映した利用者本位の介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、見直しは状況に応じて随時に行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中対処が難しい利用者の対応でこうしたら上手くいったなどケース記録や申し送りに記録し、職員会議で話し合い、個別ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中で変化していくニーズを職員全員で話し合いを行いその状況に応じた支援を行っている			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	誕生会でボランティアの方にきて頂く程度で、外部との交流少なくなってきた			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	疾患等に応じて、今までのかかりつけ医を選択される場合、当ホームの併設する医療機関を希望される場合がある。利用者の方と御家族の希望を第一に考え受診支援を行っている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に利用者の体調の変化など気付いた事常に報告し、利用者が必要に応じて的確、迅速な対応を受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の方が入院した場合、ご家族からの利用者さんの病状や、心身の状態、回復の度合い等情報をえている。退院時に、ADLや薬等の情報を病院からもらうようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針として終末期ケアは行わないとしているが、家族ご本人の希望がある場合で、かつ積極的治療を望まない場合には看取りケアを行うこともある。		利用者、家族の意向を重視し、重度化・終末期の対応方針を定め、説明を行っている。看取りの実績もあり、医師、家族、職員、関係者が方針を共有し、連携して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練はないが、利用者急変時のマニュアルがあるので目をとおすようになっている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回の消防署立ち合いの避難訓練、2か月に1回の自主避難訓練を実施している。			
					今後、災害の種類や時間帯を想定した避難経路の確認や誘導を適切に行い、避難訓練時に地域住民に参加を呼びかけるなど、地域との協力体制を築くことに期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いやトイレ、入浴、更衣などの介護、すべてにおいてプライバシーや自尊心に配慮したケアを行っている。		利用者一人ひとりの人格を尊重した精神面への配慮や個人情報の保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人とコミュニケーションを十分にとりながら、思いや希望を汲み取るようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中はある程度ホームの日課に添って生活されている。午後からは縫い物をされたり、テレビを見たり、部屋でゆっくり過ごされたり、職員と簡単なゲームをされたりと、自由に過ごされている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備時や朝の着替えの時、利用者に洋服を自分で選んでもらっている。ボタンのほつれ等は利用の方と一緒にいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の利用者の方に合わせてミキサーにしたり刻みにしたり食べ易い形にしている。また利用者の体調を見ながら、台拭きや小鉢の取り分けや配膳下膳、お茶碗拭き等一緒に行っている。		旬の新鮮な食材を使った利用者の嗜好に配慮した献立を作っている。職員は、同じテーブルを囲んで食事介助をしたり、利用者と一緒に楽しく会話をしながら食事をしている。力量に応じて後片付け等を手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量チェックを行い摂取量の確認を行う。1回の食事量が少ない利用者には分食し、必要な栄養やカロリーが取れるよう支援している。お茶をあまり好まない利用者にはアクエリを飲んでもらったりして水分確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをおこなう。夕食後は、入れ歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。			

宮崎県都城市 グループホーム小松原(2号館)

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を基に、個々の排泄するタイミングやパターンを把握し、トイレへの誘導を行うことで失敗の回数を減らし、トイレでの排泄が行えるよう支援している。	排泄つチェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄つパターンを把握し、できるだけトイレで排泄つできるよう自立に向けて支援している。おむつの使用を減らす取組もなされている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が行えるよう、午前中ホットミルクを提供している。また毎食時提供しているお茶やポカリスエットを一定量飲んで頂くよう、こまめに声かけをしている。身体を動かして頂くよう、体操や身体全体を使ったレクを行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後より一人ひとりの体調を見ながら、2日に1度を目安に入浴支援を行っている。状態により、中止または清拭対応を行う場合もある。入浴後は水分補給をおこない、様子観察をしている。	利用者のこれまでの生活習慣や好みに合わせた個別の入浴を支援している。入浴を拒む利用者には、時間をずらしたり、タイミングに合わせて声掛けをするなどして支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	臥床時間は個々のペースに合わせており、テレビ観賞などをしてゆっくりと過ごして頂いている。夜間なかなか眠れない方については、話を伺ったり、しばらく一緒に過ごすことで落ち着かれる方もいる。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は、個々のケース記録にて処方箋を保管している。変更があった場合は、副作用や状態変化の可能性を申し送りに記載、変更内容を赤字でわかるように業務日報に記載するなどして職員に周知している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野を把握し、洗濯たたみや床掃除、食事の配膳などの手伝いをしていただいている。またしりとりやトランプ、塗り絵、編み物などさまざまな楽しみごとの支援を行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	全員そろっての外出は難しくなっており、天気の良い日は、気分転換に敷地内の庭や花々を観賞したり、時期によっては植えてある果樹をもぎり、持ち帰って頂くなど少しでも季節感を感じて頂けるように心がけている。	外庭で散歩やレクリエーション活動、軽喫茶を行ったり、庭の花々の観賞、時期によっては、庭の入り口に植えてあるレモンを持ち帰るなど、季節感を味わってもらえるよう工夫している。家族にも協力してもらい、外出等を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、ご家族よりお小遣いという形で預かり、備品等が必要な場合は職員が管理、購入をしている。お小遣いは領収書と出納帳記入にて管理している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人から希望があれば、できるように支援している。また、家族や知人からの電話があった場合、取次ぐようにしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を保ち、季節の花を生けたり、食堂ホールの壁に季節に合わせて利用者さんと職員が合同で作成した作品を飾るなど、快適に過ごせる空間を作れるよう工夫している。	共用空間に温度計を設置して調整を行っている。季節に応じた飾りつけや花を生け、居心地よく過ごせるように工夫している。廊下にはソファを置き、利用者が落ち着いて過ごせるよう配置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	休憩をしたり、利用者さん同士でコミュニケーションを取れるように廊下にベンチを設置している。また食堂ホールにはソファを置き、ゆっくりと過ごしていただいている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口に職員手作りの表札を貼り、部屋の場所をわかりやすくしている。使い慣れていたたり好みのものがあれば、家族から持ってきていただいている。また家族からのプレゼントや写真を飾っている利用者様もいらっしゃる。	その人らしい居室になるよう工夫し、観葉植物を置いたり、使い慣れた家具、写真、ぬいぐるみなどを置き、ゆったりと安全に安心して過ごせる環境を整えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには手書きでの案内が貼っており、場所がわかりやすくなっている。施設内はバリアフリーで、廊下やトイレ、浴室などには手すりが設置してある。			